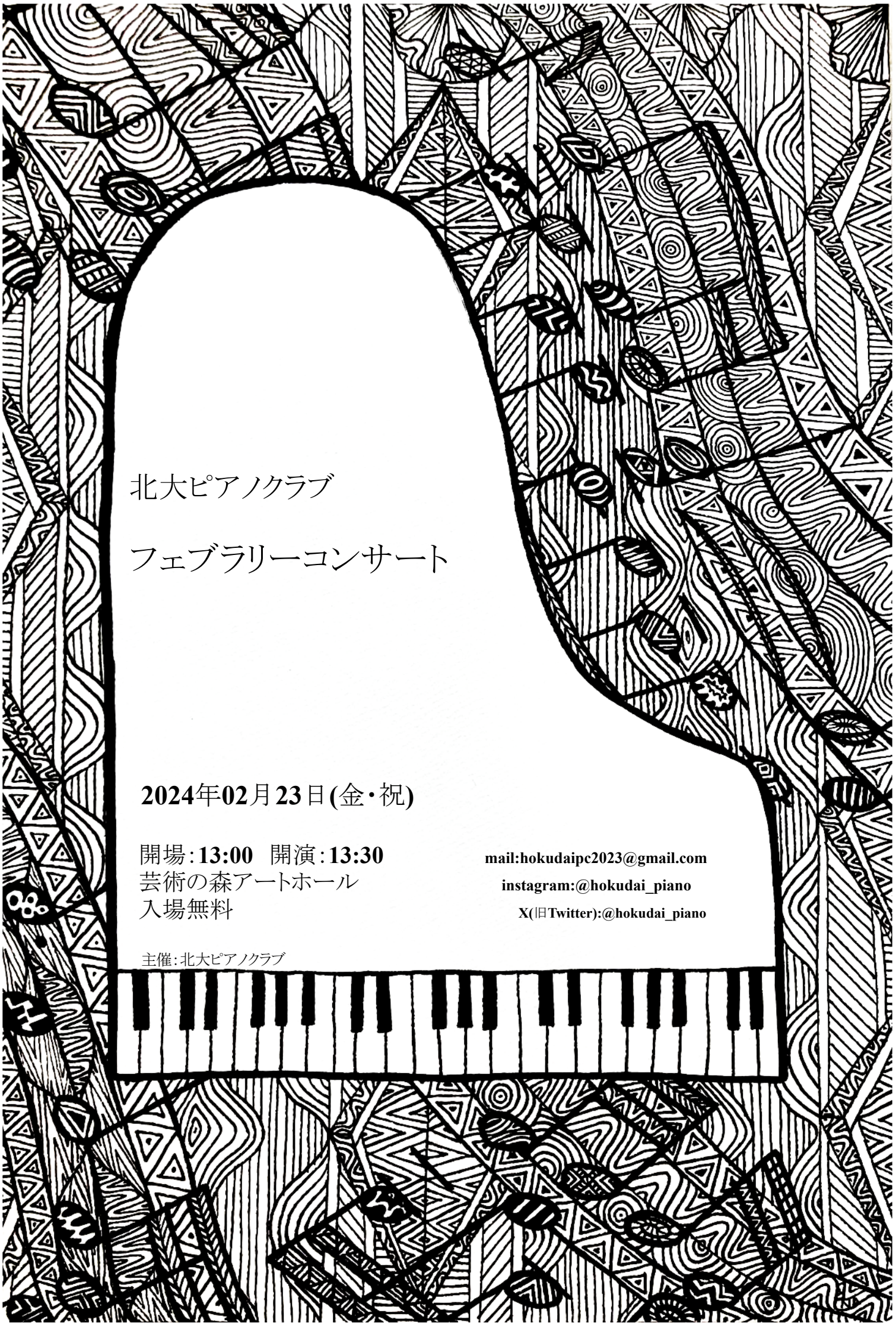

北大ピアノクラブ

フェブラリーコンサート

2024年02月23日(金・祝)

開場：**13:00**　開演：**13:30**
芸術の森アートホール
入場無料

mail:hokudaipc2023@gmail.com
instagram:@hokudai_piano
X(旧Twitter):@hokudai_piano

主催：北大ピアノクラブ

Program

〈第1部〉

1. J.S.バッハ「フランス組曲　第6番　ホ長調　BWV817」
   演奏：歯学部　3年　青山翔（あおやましょう）

2. 金大建「Waltz of Anguish（悲嘆のワルツ）」
   「Winter Fantasy（冬の幻）」
   法学部　3年　金大建（キムデゴン）

3. ショパン「バラード第1番　ト短調　Op.23」
   法学部　2年　初谷実優（はつやみゆう）

4. カプースチン「The End of the Rainbow　Op.112」
   獣医学部共同獣医学課程　4年　福田凌太郎（ふくだりょうたろう）

5. ドビュッシー「『ベルガマスク組曲』よりⅣ.パスピエ」
   工学部環境社会工学科　2年　酒向みなみ（さこうみなみ）

6. J.S.バッハ「平均律クラヴィーア曲集 第1巻 第5番 ニ長調 BWV850 前奏曲」
   ベートーヴェン「ピアノソナタ　第5番　ハ短調　Op.10-1　第3楽章」
   ブラームス「ワルツ　第15番　変イ長調　Op.39-15」
   工学部環境社会工学科　2年　浜口怜子（はまぐちれいこ）

〈第2部〉

7. ブラームス「ピアノソナタ　第3番　ヘ短調　Op.5」
   理学部数学科　4年　笹木元太　（ささきげんた）
   水産学部海洋生物科学科　2年　堀田柊成　（ほったしゅうせい）
   農学院生命フロンティアコース　1年　川満龍平　（かわみつりゅうへい）
   理学部化学科　2年　井上武優　（いのうえたけまさ）
   工学部機械知能工学科　3年　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈第3部〉

8. ショパン「バラード第1番　ト短調　Op.23」
工学部応用理工系学科　4年　永山奏子（ながやまかなこ）

9. ショパン「バラード第3番　変イ長調　Op.47」
医学部医学科　1年　西村航輝（にしむらこうき）

10. ベートーヴェン「ピアノソナタ　第8番『悲愴』ハ短調 Op.13　第1楽章」
農学部　4年　浅井久悟（あさいきゅうご）

11. シューベルト「ピアノソナタ　第13番 D.664 Op.120 イ長調　第1,3楽章」
医理工学院　1年　東山創（ひがしやまそう）

12. ショパン「スケルツォ　第2番　変ロ短調　Op.31」
薬学部薬学科　6年　成家康太（なりやこうた）

Introduction

1.　J.S.バッハ「フランス組曲　第**6**番　ホ長調　**BWV817**」
　歯学部　**3**年　青山翔（あおやましょう）

〈曲紹介〉

バッハは6曲の「フランス組曲」を書いています。バッハ自身は「クラヴィーアのための組曲」と名付けましたが、この組曲は優雅で親しみやすく洗練された音楽であり、フランス的な感覚が盛り込まれているために「フランス組曲」と呼ばれるようになりました。
フランス組曲第6番はAllemande, Courante, Sarabande, Gavotte, Polonaise, Bourre'e, Menuet, Gigueの8つの舞曲から構成されています。バッハの時代には、Allemande,Courante, Sarabande, Gigueという配列でしたが、SarabandeとGigueの間に様々な「当世風の舞曲」を挿入することが許されました。代表的なものはAir, Menuet, Gavotte, Bourre'eなどで、こうした数曲の舞曲が挿入されて現在のフランス組曲完成したのです。

ちなみに、オータムコンサート(2023)では、フランス組曲第5番を演奏しました。第5番のGavotteとGigueは特に知名度が高く、それに比べて第6番は全体的に知名度が低いですが、私がフランス組曲を弾き始めるきっかけとなったのがフランス組曲第6番であり、最も印象に残った曲でもあります(詳細はオータムコンサートのパンフレット参照)。今回はそんな第6番を全曲通しで演奏できるので楽しみです。バッハの良さを出しつつも飽きが来ないように表現豊かに演奏します。

〈自己紹介〉

こんにちは。青山です。フェブコンに出るのは何だかんだ初めてです。私は去年、サマーコンサート、ウィンターコンサートの1週間前に風邪をひいたり、OBOGコンサートの10日前にインフルに罹るなどコンサート前には体調を崩してきました。今回は芸術の森で演奏できる初めての機会なので体調を崩さないようにしたいです。

2.　金大建「**Waltz of Anguish**（悲嘆のワルツ）」
　　「**Winter Fantasy**（冬の幻）」
　法学部　**3**年　金大建（キムデゴン）

〈曲紹介〉

・Waltz of Anguish
この曲は『逆説』をテーマに作曲しました。 単純な悲しさを表現するのではなく、悲しみがあふれ出ていることを隠すためにあえて悲しみとは対となる喜びの表現を用いているのだ、ということをこの「悲嘆のワルツ」を通して感じ取っていただければと思います。クラシックの形式を追及しながら、同時に、自分独自のスタイルを取り入れようと頑張りました。楽しく聴いていただけると嬉しいです。

・Winter Fantasy
「冬の幻想」は北海道の冬の空を眺めているときに、ふいに思い浮かんだ曲です。冬の風景はすべてが静止しているように見え、積もった雪と枯れた木と建物が調和して美しい反面、荒涼とした姿を持ち合わせていたりもします。美しさと殺伐とした雰囲気、この冬の二面性は私に本当に多くのインスピレーションを与えてくれました。冷たそうに見える積もった雪の下に、溢れんばかりの『生命力』を持っている、このことに心を打たれ、感じたままにこの曲に表現しました。
また、本曲を作りながら、尊敬してやまない坂本龍一の音楽を自分なりに解釈して少しでも織り交ぜようとしたので、それも一つの楽しみとして聴いていただけると幸いです。

〈自己紹介〉
法学部3年"金　大建"、略して "建(けん)" と申します。趣味で作曲をしていますが、クラシック形式の曲作りは今回が初めてです。どうぞよろしくお願いします。

3. ショパン「バラード第**1**番　ト短調　**Op.23**」
法学部　**2**年　初谷実優（はつやみゆう）

〈曲紹介〉

ショパンが作曲した4つのバラードのうち最初の作品であるこの曲は、1831年に作曲されました。「バラード」は、「踊る」という意味を持つギリシア語のballizo、ラテン語のballareを語源としており、器楽作品にバラードという言葉を用いたのはショパンが初めてだと言われています。また、この作品はミツキェーヴィチの物語詩「コンラッド・ヴァレンロッド」から着想を得て作曲されたそうです。第1主題と第2主題が形を変えながら交互に登場する様子から、ひとつの壮大な物語のような構成になっているようにも感じられます。
ショパンのバラード4作品は北大ピアノクラブの中でも大変人気があるため、聴き馴染みがある方も多いと思います。私もこの曲は大好きな曲の1つなので、今日は楽しんで演奏できたらいいなと思います。

〈他己紹介〉

このたびは、みゆう先輩の紹介文を書かせていただける機会をいただき、私の知る限りではありますが、その溢れる魅力をお伝えします！
私が初めてみゆう先輩とお会いしたのは、新歓のときでした。周りが全員初対面の中、私がやや戸惑っていたときに、やさしく話しかけてくださったことがとても印象的でした。
みゆう先輩の魅力は何といってもピアノの腕前です。
1年目でありながらも何度もコンサートに出場し、我々に素敵な演奏を披露してくださいました。特に、去年の秋に行われたフレッシュマンコンサートでは、トリを務めるなどの活躍を見せてくださいました。加えて、みゆう先輩は可愛くて、服装もいつもお洒落で、私の憧れの存在でもあります。
今回は、みゆう先輩がお気に入りの作曲家であるショパンのバラード1番を演奏してくださるそうです。素晴らしい演奏を期待しています！

4. カプースチン「**The End of the Rainbow　Op.112**」
獣医学部共同獣医学課程　**4**年　福田凌太郎（ふくだりょうたろう）

〈曲紹介〉

この曲について作曲者は、『曲は叙情的な部分とリズミックな部分が交互に現れる形をとっているが、曲の基調となっているのは、柔らかで叙情的な性格である。曲は二つの部分からなるが、後半部は前半部の変奏である。コーダは主要テーマから作られている』とコメントしています。その通りなんですが、後半部変奏の前半は新しいメロディーのように聴こえるので、途中まで変奏していると気づきにくくなっています。リズミックなメロディーの方が耳に残るかもしれませんが、何度か聴くと叙情的なパートの良さがわかると思います。この曲のタイトルは作曲者の息子で物理学者のアントン・カプースチンによってつけられました。作品番号終盤でカプが即興曲やプレリュードとかひねりのないタイトルに飽きたらしいです。他にも、「Gingerbread man」や「No Stop Signs」などがあります。さすがは物理学者、良いセンスですね！？

〈他己紹介〉

カプ太郎

どぎつい大阪弁に元アメフト部の彼は、ピアノなんかぶち壊しそうな見た目をしていますが、実はかなりのクラオタ(カプ限定)。
ふと彼に「カプースチンがぁ…」とか言うと食い気味に詰められることでしょう。筆者も「何番か忘れたんだけどカプースチンのソナタの4楽章がぁ…」と言うと「カプのソナタで4楽章まであるのは限られるんやけど知名度的に2番ちゃう？(早口)」と秒で特定されました。怖。その後も1時間半カプのおすすめソナタについて熱く語っていただきました。
曰く、「2番と1番と8番と12番と11番は聴いて欲しくて、余裕があれば6番16番7番19番も聴いて欲しい(早口)」との事。(8番は結構好き。ミーハーなのでキャッチーなメロディがある方が好きなのかも。まだ全部はちゃんと聴いてない。)あとYoutubeもやってます。筆者は作曲とかした事ないのでほんとすごいなぁと感嘆してます。結構おしゃれで良いのでぜひ聴いてみてね。

5. ドビュッシー「『ベルガマスク組曲』よりⅣ.パスピエ」
工学部環境社会工学科　**2**年　酒向みなみ（さこうみなみ）

〈曲紹介〉

ベルガマスク組曲の4曲目、つまり『月の光』の次の曲です。軽快なリズムとちょっと哀愁漂うメロディーが特徴です。底抜けに明るくもなく、かといって悲しみに沈んだというほど暗くもないという絶妙な塩梅のせいか、練習しているともの思いが捗ってしまい、長時間練習しつづけることができないというトラップありです(私だけかもしれませんが)。
実は、ドビュッシー好きを公言するわりに有名どころの『月の光』や『亜麻色の髪の乙女』を弾いたことがありません。この2曲をそろそろ練習しようと思っていたのですが、ベルガマスク組曲でいちばん好きな『パスピエ』をどうしても先に弾きたくて今回はこの選曲としました。次こそは有名どころを練習してドビュッシー好きの名に恥じないレパートリーを身につけたいと思います…。

ちなみに、スカイダイビングの経験はありません。したいとは思っていますが。

〈他己紹介〉

酒向さんとはかなりの古なじみで、思えば長い付き合いになります。
初めて会ったのが三週間程前なので、三週間の付き合いということになりますね。

こうして人物紹介を任されたということで、今回は酒向さんの良いところを紹介していきたいと思います。

1.北大に通っている
彼女はあの有名大学、北大に通われているそうです。
何学部の何専攻だったかは失念してしまったのですが、勉学に励んでいるのはすばらしいことですね。

2.ピアノクラブに所属している
勉学もさることながら、なんとピアノが大変お上手です。
今回はお得意のドビュッシーを弾かれるということで、大変すばらしいですね。

3.スカイダイビングのインストラクターの資格を持っている
なんと彼女はスカイダイビングのインストラクターの資格を持っていらっしゃるそうです。
いえ、資格を持っているというのは少々語弊がありますね。資格は持っていらっしゃらないそうです。
スカイダイビングをしたことがあるのかも私は知りませんが、すばらしいことです。

俯瞰すると、改めてすばらしい人物だなと思わされますね。
そんな彼女が演奏するドビュッシー、ドビュッシーのどの曲かは知らないのですが、大変楽しみです。

6. J.S.バッハ「平均律クラヴィーア曲集 第1巻 第5番 ニ長調 BWV850 前奏曲」
ベートーヴェン「ピアノソナタ　第5番　ハ短調　Op.10-1　第3楽章」
ブラームス「ワルツ　第15番　変イ長調　Op.39-15」
工学部環境社会工学科　2年　浜口怜子（はまぐちれいこ）

〈曲紹介〉

普段あまり弾くことのない作曲家に挑戦しよう！ということでいわゆる「ドイツ三大B」から1曲ずつ弾かせていただきます。

バッハ：平均律クラヴィーア曲集は24すべての調による前奏曲とフーガで構成され、当時のクラヴィーア(鍵盤)楽器の練習曲として作られたそうです。5番の前奏曲は軽快で可愛らしい曲です。

ベートーヴェン：ソナタ5番は、同じくハ短調の悲壮ソナタと比較して「小悲壮」と呼ばれることもあるそうです。今回演奏する3楽章は、短いながらも創意が凝らされています。

ブラームス：ブラームスのワルツ集の中で最も有名な曲です。「愛のワルツ」という愛称がつけられているんだとか。愛を届けられるように心を込めて演奏したいと思います！

〈他己紹介〉

皆さんお待ちかねの怜子ちゃんです。京都出身。先代部長。ピアノがとっても上手で・・・って、うわあああああああああっっっ！？

『お前おもんないで、知らんけど。お前おもんないで、知らんけど。』

こ、こいつは！
“悪口言っておきながら『知らんけど』で全責任を放棄する関西人”・・・！！！
やめろ！離せ！

『離さへんで、知らんけど。』

まずい、完全に絡まれてしまった・・・　誰か助けて～～！

「やかましいどす」

あ、あなたは！？

「しがない京都人どす。とりあえず、そこのたち悪い関西人さん。
・・・“ぶぶ漬けでもどうどす？”」

ドオオオオオオオオオンッ！！！！！！！

『帰りますわ～！知らんけど！』

“ぶぶ漬け”・・・なんて威力だ。一撃で帰ってしまった。

すみません！京都人さん、助けてくれてありがとうございました・・・！
せめてお名前を・・・！

「名乗るほどのもんでもあらへん。もうすぐ出番なもんで、このへんで失礼させていただくどす。
ほなさいなら。」

ああ、行ってしまった。パニックで顔もちゃんと見れなかったし。
また会えたらいいなあ・・・

＊＊＊

この京都人の伝説は、現在に至るまでピアノクラブ内で語り継がれてきた。
部員たちはみな、彼女のことをこう呼んでいる。

――――――「姐さん」

7. ブラームス「ピアノソナタ　第**3**番　ヘ短調　**Op.5**」
理学部数学科　**4**年　笹木元太　（ささきげんた）
水産学部海洋生物科学科　**2**年　堀田柊成　（ほったしゅうせい）
農学院生命フロンティアコース　**1**年　川満龍平　（かわみつりゅうへい）
理学部化学科　**2**年　井上武優　（いのうえたけまさ）
工学部機械知能工学科　**3**年　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈曲紹介〉

このソナタは全5楽章からなり、演奏には40分程度を要するブラームスのピアノ作品の中でも際立って規模の大きな作品となっています。1楽章はソナタ、2楽章は緩徐楽章、3楽章はス

ケルツォ、4楽章は間奏曲、5楽章はヘ短調のフィナーレという構成です。ソナタというと3～4楽章からなるものが多く、5楽章からなるこの曲は、ピアノ・ソナタというジャンルの中では異彩を放つ存在となります。
この曲は1853年の冬に出版されました。1853年というと、フランツ・リストがこれまでの伝統的な3～4楽章からなるピアノ・ソナタの構成を破り、単一楽章からなるロ短調ソナタを完成させた年でもあります。自由で進歩主義的な音楽を標榜する新ドイツ楽派に属するリストと、保守的で伝統を重んじるブラームスは正反対の立場でした。しかし、同時期に新たなピアノ・ソナタの方向性を模索していたという点で一致するのは非常に興味深いです。
ブラームスは晩年の1892年に「3つの間奏曲Op.117」という間奏曲だけからなる小品集を出版しており、「間奏曲」という一つのジャンルに強い思い入れがあったと推察されます。その間奏曲というジャンルに対する強い思いを含ませつつ、次の時代のピアノ・ソナタの形の提案として、この5楽章からなるピアノ・ソナタは生まれたのではないかと筆者は考えています。フィナーレの前、スケルツォの後に間奏曲を入れることでスケルツォとフィナーレの境界を明確にさせることに成功し、それぞれのクライマックスが従来のピアノ・ソナタと比べてより際立つようになった点は5楽章制のソナタの強みだと思います。
ブラームスは生涯で3曲のピアノソナタを作曲しています。が、生涯最後となるこの3番はブラームスが19歳の時の作品です。ブラームスが1897年に63歳で亡くなったことを考えると、かなり若い段階でピアノ・ソナタという一つのジャンルに終止符を打ったこととなります。筆者もこの5楽章からなる壮大なソナタは生涯最後のソナタとするにふさわしい大作であると強く感じています。有終の美を飾ったともいえるでしょう。
以下に各楽章を担当する部員からの各楽章の紹介をさせていただきますのでぜひお読みください。演奏時間もかなり長くなりますが、最後までお聞きいただければ幸いです。

1楽章：アレグロ・マエストーソ
この曲は一昨年7月のコンサートで5楽章担当坂野が演奏しており、そこで知りました。一目惚れしてしまい、弾くタイミングを図っていたところ、同年12月のコンサートで坂野が今度は3楽章を演奏し、さらには同コンサートで今回2楽章担当の当時1年の堀田がブラームスが好きだということがわかり、他にも人を募り今回のコンサートに至りました。
1楽章は、重厚な和音とその和音を装飾する32分音符が織りなす壮大な雰囲気が特徴的です。至る所に出てくる10度の心地よい響きが、低音の非常に重たい和音に軽やかさを持たせてくれている点は一つの聞きどころかと思います。
今回苦労した点をいくつか挙げます。
・32分音符のキレ
・32分のオクターブの跳躍
・右手一本での3連符と8分音符の正確な同時処理
・ffの中でのさらなるクレッシェンドの指示
・左手の10度の和音の連続
32分の処理は本番でうまく行くか分からないですが、出来る限り頑張ります。

2楽章：アンダンテ・エスプレッシーヴォ
たそがれ迫り　月影は輝くそこに二つの心 愛にて結ばれてお互いに寄り添い 抱き合う

詩人シュテルナウの「若き恋」という詩を標題に掲げられて、この2楽章は作曲されました。明らかに恋の成就を謳っていると捉えることができるでしょう。それにしても甘いですね。
さて、曲調はというと、10分強の演奏になりますが、全体的に子守唄のような穏やかな旋律と甘美な和声を感じさせてくれます。それでも長い楽章なだけあって、フィナーレの盛り上がりはこのソナタ随一と言えるでしょう。少なくとも私は1番好きです。満足に演奏できるかは置いておいて、頑張ります。

とりあえず私は今回のコンサートをもちまして函館移行のため、サークルの活動には熱心に参加できなくなりそうです。しかし私は旧問寒別の民に見習い、また帰ってくることを誓います！誰か待っててください。そして札幌に遊びに来たら誰か飲みに行きましょう！宿も欲しいです…

3楽章：スケルツォ
3楽章はアレグロの1-5楽章とゆったりとした2-4楽章を分かつ分水嶺としての役割を果たす、スケルツォの名がつけられた軽快な3拍子の曲です。音域が広くて音が飛ぶので弾いてても聞いてても気が休まりません。頑張って弾きます。

4楽章：インテルメッツォ
第4楽章は他の楽章と比べ迫力に欠けますが、まるで物語の終焉を迎えるような重々しさが印象的です。きっとこの物語はバッドエンドなのでしょう。不吉な音色をお楽しみください。

5楽章：フィナーレ
6/8拍子のロンド形式で A-B-A-C-A-Coda という形を取ります。厳格にリズムを刻む第1主題(A)は、高音部と低音部のかけあいの後に高い山を登るように盛り上がりを見せます。第2主題(B)ではゆったりとしたメロディや美しい和声の響きが見られ、ロマン派としてのブラームスの特徴が現れていると言えるでしょう。左手とのバランスが難しい…。そして、再び第1主題(A)を見せた後、和音進行のみで進む讃歌のような第3主題(C)に入ります。カノンの進行や深く響く低音など、古典派としてのブラームスらしさが見られる面白いパートです。さて、再び第1主題が示されます(A)が、ここでは1度目に比べ山が高くなるほか、山下りには岩場を飛び跳ねるような難所もあり、弾きごたえのある部分になります。その後、第3主題を変奏しながらコーダへと向かっていきます。大規模なソナタを占めるにふさわしいコーダは、piu mosso(今までより速く)の指示の下でこれまでの主題が重なるようにして登場する、まさにクライマックスです。最終盤は迫力ある和音が重なり、第1楽章のコーダを思わせるアルペジオでソナタは終わりを告げます。
古典派としてのロンド形式をとりながら、和声やメロディの構成にロマン派の情熱を感じさせる素晴らしいフィナーレです。是非、ご賞味ください。

〈他己紹介〉

笹木
4楽章担当井上より紹介します。笹木元太、42歳。見ての通りのおっさんです。酒をこよなく愛し暴飲暴食を続けた結果わがままボディになってしまいました。あまりにも酷かったので1度ランニングに無理やり連れていきましたが一日坊主で終わりました。タバコも沢山吸うので不健康極まりないですね。
そんな元太おじさんのピアノの魅力はなんと言ってもその巨大な身体から繰り出される迫力満点な音色でしょう。あまりの迫力でサークル会館のピアノが壊れてしまうほどです。流石にホールのピアノを壊したら大問題ですので程々にしてもらいたいですがいつも通りの演奏を期待してます。

堀田
5楽章の坂野より、2楽章を演奏してくれる堀田君の紹介いたします。堀田君は水産学部の2年生で、昨年はピアノクラブ幹部の一人としても活躍してくれました。落ち着いた雰囲気のしっかり者で、彼のピアノはその優しさが魅力です。ブラームスが好きなようで何度も聴かせていただきましたが、力強くも温かい、素晴らしい演奏でした。今回の演奏曲もブラームス…!ぜひ、ご期待ください。

さて、そんな堀田君ですが、飲みの席では印象がガラリと変わります。主に先輩相手にですが(多分)、かなりのダル絡みに面倒くさいイジリ…まあ、そこも彼の魅力なのでしょう。因みに刺身が出てきたときには面白い話が聞けます。さすがは水産学部といったところ。皆さんも是非お話聞いてみてくださいね。

川満

2楽章担当の堀田よりちいかわこと川満氏の紹介をさせていただきます！　川満氏といえばてぃんさぐぬ花です。カラオケで妖艶な歌声を披露してくれました。どれくらい良かったかというと日本にゆかりのない留学生が感動してプレイリストに入れたくらいです。また聴きたいな、ちなみに川満という苗字は沖縄の宮古島の地名が由来なんだとか。川満氏は生粋の"しまんちゅ"なんですね！ﾁｨw

またピアノクラブ随一の麻雀の打ち手との呼び声をよく耳にします。好きが高じて雀荘でアルバイトをしているみたいですよ。皆さんも伺ってみたらいいのではないでしょうか？

ちなみに筆者の偏見ですが川満氏の1番好きな役満は緑一色（リュウイーソー）な気がします。りゅうへいなだけに、ﾁｨﾁｨww

ここまでタラタラと説明してきましたけれども、果たしてこの紹介文は皆さんの目に届くのでしょうか？川満氏は筆者と同様譜読みに苦労しているみたいです。残り1ヶ月でコンサートに出演できるのか？刮目せよ！ﾁｨﾁｨﾁｨwww

井上

どうも大御所Kです。まさか3つも下の子の紹介文を書く事になるとは…感慨深いものです。時間がないので箇条書きで紹介します。

・インディーでお馴染みの彼。インド人に同郷と間違えられたことからこの名前が付いたとか付いてないとか。
・やたら女子力が高い。美容への造詣が深く、化粧やら美容やらの女子トークについて行くどころか女子を置いていっちゃうとか。まつげ。
・ヤニ◯スの進言により彼の家に凸った際、部屋を片付けるのに40分かかってヤニが5、6本無くなったとか無くなってないとか。
・月光全楽章練習していたような気がしますが聴けるのはいつかなぁ…(圧)
・インスタメシテロリスト。意外とそこは男メシらしいのが何となく彼らしいですね。
・シスコ◯。

P.S. ブラームスがんばろうね(1.19現在筆者は1ページ目)

坂野

「笹木さんはそこまで太ってないけど、思想がデブです。」と筆者を煽ってくる思想ガリの坂野を紹介いたします。熱いぜ多治見！出身の22歳。筆者とは「ショパンは弾いていても手が喜ばない。ラフマニノフやリストは脳汁ならぬ手汁が出る。」という点で意気投合した"テジトモ"です。

彼は演奏技術が非常に高いことでよく知られていますが、実はソルフェージュも学んでおり、楽譜を読む技術も非常に高いです。いつも筆者が気が付かない重要な点を楽譜から読み取って教えてくれる先生的なありがたい存在です。

最近はラフマニノフにぞっこんなようですが、実は筆者もラフマニノフは大好きなので、もしかしたら来年の2月は筆者と2人でラフマニノフのソナタ2番を全楽章演奏する企画が実現するかもしれません。

また、本人曰く、フェブコンは春休みで練習時間が十分に取れるためクオリティが高くなる傾向にあるとのことです。そんな彼の渾身のフィナーレは非常に楽しみです。

8. ショパン「バラード第**1**番　ト短調　**Op.23**」
工学部応用理工系学科　**4**年　永山奏子（ながやまかなこ）

〈曲紹介〉

最後の演奏に選んだ曲は、ショパンのバラード1番。
穏やかさと激しさの緩急がダイナミックで、繊細で熱を帯びたクライマックスが大好きな一曲です。
本日は集大成として、皆さまに楽しんでいただけるような演奏ができればと思います。

〈他己紹介〉

帰国子女であり生粋のお嬢様でもある彼女はまるで漫画の主人公のようで、まさに人生がモテ期。
それでいて話すとかなり親しみやすく、自分語りを一切しない彼女は、付き合いの長い私から見てもずっと憧れの存在です！
中でもピアノはアメリカの国際コンクールで金賞の腕前で、本日の演奏もお楽しみいただけること間違いなしです！

9. ショパン「バラード第**3**番　変イ長調　**Op.47**」
医学部医学科　**1**年　西村航輝（にしむらこうき）

〈曲紹介〉

ショパンの作品の中でも有名なバラードの一つでショパンも好んで演奏した曲です。「バラード」という言葉は「物語詩」を指しバラード音楽の特徴として落ち着き静かな曲調から始まり優雅ながらも感傷的なメロディーを中心とした変調やテンポの変化により明るい部分と暗い部分をつくり、終盤に向かって盛大に盛り上がっていくという曲全体として一つの物語を表すような構成になっていることがあげられます。ショパンのバラード3番もこの形式に沿って作曲されており詩である「シフィテジャンカ」から着想を得たとされています。3番がほかのバラードと異なるのは曲全体から悲劇的な印象を感じないことです。ショパンは生涯を通して持病ある結核や祖国であるポーランドでのユダヤ人迫害などに悩まされていました。そのためショパンの多くの曲には優雅でありながらもどこか寂し気なメロディが含まれています。しかしこのバラード3番は全体を通して軽快で陽気な曲調になっています。これにはショパンが作曲時自身の恋愛関係がよかったこと、持病が好調であったためショパン自身が明るく生活できていたことが強く影響していると考えられています。三拍子やシンコペーションを意識して曲の軽快で楽しさを表現できるように演奏頑張ります。

〈自己紹介〉

初めまして。後期から入った1年生の西村航輝です。ピアノサークルのコンサートに参加させていただくのは今回が初めてです。普段は北大交響楽団に所属しておりその練習やバイトなどで忙しい日々を送っています。あまりピアノサークルのサークル活動には参加できておらず、知り合いも全然いないので気さくに話しかけてもらえると嬉しいです。ピアノは4歳ごろから初めて高校に入るまでずっと習っていました。高校時代には人前で演奏する機会が全くなく、久々の人前での演奏にとても緊張しています。最後まで引ききれるように頑張りますので優しい目で見守ってください。

10. ベートーヴェン「ピアノソナタ 第**8**番『悲愴』ハ短調 **Op.13** 第**1**楽章」
農学部 **4**年 浅井久悟（あさいきゅうご）

〈曲紹介〉

今回はベートーヴェンの3大ソナタの1つとも言われているピアノソナタ第8番「悲愴」の第1楽章を弾かせていただきます。有名な曲なのでわざわざここで曲について説明しても知ってるよーって方もいらっしゃるでしょうし、私自身そういう話にあんまり明るくなく、うまく説明するには骨が折れそうなので解説や歴史的な背景については省略させていただきます。気になる方はお手持ちのスマートフォンなどでお調べください。たくさんの丁寧な説明が読めるでしょう。
ここでは私とこの曲との出会いについて書かせていただきます。初めてこの曲をきちんと聴いたのは中学生の頃でした。重厚な和音から始まるこの曲は一瞬で塞ぎ込みがちだったかつての私の心の奥まで入り込んできました。それから幾度も演奏を聴いたり、実際に練習したりするうちにどんどん悲愴に惹かれていき、いつの間にか愛する曲の一つとなってました。悲愴の持つ大きな悲しみに自分の中の悲しみや心の痛みを写していたからかもしれません。一人でよく泣いていた私を包み込んでくれるような曲でした。
今回この曲を弾き直すことでかつての苦しみを思い出し、感傷に浸りながら練習しています。しかし、今ではかつてほどの痛みはなく、いくらかは自分の糧へと昇華させられたのかもしれません。ただ痛みに苦しみ絶望していた少年期の演奏とは少し異なった、痛みを抱きながらもそれを愛してあげられるような演奏をしてみたいと思います。

〈他己紹介〉

浅井久悟くんは、実は東京生まれ東京育ちの、いい意味で「傲慢なサディスト」です。もちろんいい意味です。彼の素晴らしいSエピソードはとどまるところを知りません。

一人っ子&共学の私立中高一貫校出身という手厚いサポートを受けて育った浅井さんは、人の気持ちがわかる、とても優しい先輩に育ちました。←お金をもらって書いています

昨年の5月には厚岸町へ後輩を拉致し、うち2人を生牡蠣によるノロウィルス発症に追い込んだ実績を持ち合わせています。思いがけず3キロの減量に成功した筆者は2割は感謝したとのことです。

いつも後輩の背後を取ることに長けていますから、気づかないうちに後ろに立たれていることがあります。筆者はいつも安心と恐怖の介在する複雑な感情に包まれております。

そんな浅井さんが主催する2024年5月の「厚岸牡蠣祭り」では、同行者を募集しています。このままでは、昨年度の罹患者が再戦することになってしまいます。予め3キロ分太っておかないと採算が取れなくなる前に、Googleフォームにて生贄を募集しています。

苦しみの輪廻から救ってください。

11. シューベルト「ピアノソナタ 第**13**番 **D.664 Op.120** イ長調 第**1,3**楽章」
医理工学院 **1**年 東山創（ひがしやまそう）

〈曲紹介〉

シューベルトの曲といえばなんでしょうか。Youtubeでよく見るのは、すんごいソの音を連打する「魔王」でしょうか。魔王は怖いイメージがあるかと思いますが、今回弾くこの曲は非常に愛に満ち溢れた雰囲気であり、シューベルトのソナタの中でお気に入りの曲の一つです。シューベルトはオーストリアの旅先でソプラノ歌手に向けてこの曲を送りました。1楽章は寝ちゃいそうなくらい穏やかで牧歌的な雰囲気があり、久しぶりに実家のコタツに入ってぬくぬくしてる時くらいの温かさのある曲になってます。注目は、内声のバランスがきれいなところです。第3楽章は軽やかで疾走感のある曲調となっています。卒業生に感謝の気持ちをのせて弾きます！

〈他己紹介〉

H山さん本名東山創。3代前の部長でコロナの関係で2年間部長を務められたんだとか。筆者（後輩S）は当時高校生でしたので、実際の様子は分かりませんが、ピアノクラブのホームページで可愛い白衣の写真が写っていたのを覚えています。大先輩に頼まれましたので失礼のないよう（小声）紹介頑張らせていただきます！

小樽出身かつ在住。したがって飲み会があっても終電で帰ってしまいます。飲み会ではどうやらお顔が紅潮するみたいで、今日もピアノクラブ酒トマト界隈を引っ張ってくれてます。なお筆者も所属の模様(TT)

テニスとスキーと麻雀とボウリングをこよなく愛しています。典型的な大学生ですね。麻雀の腕前はすごいみたいで口癖は"歴がなげぇからな！"だそうです。今度ぜひご一緒に打ちたいですね。
また昨年の夏ボウリングをした際は、1ゲーム目は130ほどだったのに、2ゲーム目で180くらいのスコアを叩き出していて、筆者は2ゲーム目で惨敗しました。"肩あったまってきたわ！"って煽られたのを覚えてます(u_u)リベンジしたいです。

そんな東山さん実はユーチューバーだったんです！男子なら一度は通ったことがあるであろう熱血野球アニメ"メジャー"のテーマソングをピアノカバーしているみたいですよ。YouTubeで🔍 心絵 ピアノ そーいーすと と検索してみてください。再生回数の多さにきっと驚きますよ！えっ、なになにどうしてこんなに演奏が素晴らしいのに2曲しかアップされてないんだって？それはね、パスワードを紛…
おっちょこちょいで微笑ましいですね（^▽^）誰かパスワードご存知の方がいらっしゃいましたら本人に教えてあげてください。きっと昼御飯ご馳走してくれますよ♪なんてったって"1ポチ25……だからな！"

っとここまで失礼のないように紹介を続けてきましたが、ここからは打って変わって株を上げていきます↑↑

ピアノの演奏はというと、正直非の打ち所がないです。特に印象に残っているのは学祭のストリートピアノです。自分が知っている邦楽ならなんでも弾くことができるようです。曰く浪人期にポップスを弾きまくったら耳コピできるようになったみたいです。是非リクエストしてみてください！
また幼少期から数々のコンクールで活躍してきたその腕前は、現ピアノクラブでも屈指だと素人耳ながら感じます。今回のコンサートは出る予定無かったみたいですが、

筆者が冗談で出演をお願いしたところ、"やってやろうじゃねえか、この野郎！！"とのことでした笑　今回のシューベルトも楽しみです！お楽しみください！！

以上長々と紹介させていただきました。今後も仲良くしてくださいね！

12. ショパン「スケルツォ　第**2**番　変ロ短調　**Op.31**」
薬学部薬学科　**6**年　成家康太（なりやこうた）

〈曲紹介〉

クラシック好きなら誰もが知っているであろうこの曲は、若かりしショパンが音楽家として人気を博す一方、肺結核になったり婚約破棄になったり新たな恋が始まったり…と様々な出来事があったさなか作曲されました。

冒頭から囁くような三連符の「問い」と感情的で激しい「答え」が何度も繰り返され、続いて変ニ長調の優雅な主題が現れます。中間部は全体的に穏やかで、イ長調の神秘的な旋律に続き、シシリエンヌやワルツなど様々な要素が出てきます。しかし幸せな時間は束の間で、突如劇的な変化を迎えます。嵐のような激しいパッセージが続いたあと次第に消えていき、再現部が始まります。コーダでは主題が熱烈に反復され、華々しく終わります。

泣いたり笑ったり、人生っていろいろあるよね。
そんな曲だと思います。

〈他己紹介〉

曲紹介と他己紹介の斡旋の両方を押し付けられるも、大御所からの依頼で当然首を縦に振るしか選択肢のなかった後輩某木某太です。私一人で成家さんの最後の舞台の紹介を書くのも恐縮でしたので、各方面からのご協力を仰ぎ、歴代の部長を始め、同期の方々や親しい方々からのメッセージを頂戴し、私がそれを取りまとめる形を取らせていただきました。

まずは、26代から現運営の34代までの歴代の部長から頂戴したメッセージを紹介いたします。(敬称略)

26代部長　篠崎　竜我
成家、人知れず何でもこなす天才。ピアノはもちろん学業も両立させ、人から尊敬の念が絶えない存在、、、と後輩から聞きました。
驚きました。あんなに可愛い後輩が今や後輩から慕われる大先輩にまで進化していたとは、、、
その成長の過程を見ることができず少しばかり人生に後悔。
相変わらずお酒には弱そうなので、北海道を離れても飲みに行けたら少しばかり先輩の威厳を保てるかも（？）
ピアノクラブの現役生としては最後の演奏になると思いますが、恐らく素晴らしいものになると思うのは私だけではないはず。
期待を胸に楽しんでみたいと思います。

27代部長　澁澤　竜一
お久しぶりです、覚えているでしょうか？27代部長の渋沢竜一です。早いもので、私が卒業してから2年の時が経ち、現役時代最後に顔を合わせた成家の代も修士を卒業と伺いまし

た。私は現在東京の商社で営業職をしており、豊富な給料を全て酒に注ぎ込む楽しい日々を過ごしています。東京に来る機会があれば、是非飲みに行きましょう。

28代部長　藤井　謙成
渋谷のJK100人に聞いた
好きな偉人ベスト3

3位　福沢諭吉
「おかねだいすき😍」

2位 エジソン
「えらい人ぢゃん笑」
「このひとしか知らなーい🤣」

1位　成家康太
「天才」
「完璧超人」
「コミュ力お化け」
「逆にお前は何が出来ないんだ」
「この29代部長と比べたら28代の部長はカスや」

30代部長　東山　創

★★★　当選❗当選❗当選❗ 3億円❗❗❗　★★★

このたびは北大ピアノクラブの29期としてこのサークルの顔として大変貢献していただきありがとうございました。ご卒業おめでとうございます。

厳正なる観察の結果、3億円ご当選されましたのでお知らせします。以下に理由を述べます。

タイパの神、異次元のコミュ力、千葉のディズニーランド!ピアノ・就活・研究・飲み会などどれをとっても高クオリティを保っていて、どんな時間の使い方をしているのか!？マジで尊敬に値します。また、コミュ力が高すぎて老若男女だれとでも仲良くなれます。サークルで話したことない人いない説があります(話してない人は突撃しましょう)。そんな成家さんの演奏も最後です。悲しいです。耳かっぽじって聞きましょう。あとプーさん好きなので某スケーターみたいにすばらしい演奏後に投げ入れましょう。

以下のURLから3億円をお受け取りください。
http://yotteru_nariyasanha_kawaii!.jp

※振込は、一緒に飲みに行ってから3億円は全額口座に入金する流れとなります。

31代部長　浅井　久悟
成家さんはとても可愛い男の子です。毎晩くまのプーさん(48)と一緒にお布団ですやすやしてます。
ところが実はすごく頼れる一面もあり、この前は馬場さん(83)(23?)と共同で北大ピアノクラブOBOG現役共同コンサートを主催してくださいました。すごいですね。今度はOB代表として企画してくださいね！今回のコンサートで現役としては最後らしいですが、卒業後もたまには遊びに来てくださいね！

31期代表より

33代部長　浜口　怜子

成家さんの演奏には引力があるとでもいうのか、勝手に耳が吸い寄せられるような不思議な力があります。どんな曲でも「良い曲だなあ」と聴き入ってしまうのです。成家さんの演奏がきっかけでその曲にハマりSpotifyのお気に入りプレイリストに入れて鬼リピする、なんてことも度々ありました。

そんなレジェンド・成家さんの演奏もこれで最後かと思うと寂しいですが、そういえばOBOGコンサートがありましたね！

また私のプレイリストが1曲ずつ増えていくことを楽しみにしております。

34代部長　清水　虎太朗

ご卒業おめでとうございます。

北大ピアノクラブの歴史に名を残すレジェンド、成家さん。超人エピソードと同時に面白エピソードを生み出し続ける成家さん。酔ってしまうと人目を憚らず情けない姿を晒してしまうと噂の成家さん。良いではないですか。偉人にそうした話は付き物です。それでこそ部員に愛される成家さんです。成家さんの演奏を聴く機会をこれまでに何度かいただきましたが、技術、構成力、解釈などどの要素を見ても素晴らしい演奏で、先輩方が口をそろえて絶賛する理由がよくわかりました。その演奏も本日を境に暫く見られなくなると思うと寂しいものです。次のOB・OG・現役生交流コンサートでの演奏が待ち遠しいです。

成家さんは私にとって学部の先輩でもあります。ピアノの話に限らず伺いたいことは山ほどあります。国試の後の歴代部長での飲み会、楽しみにしております。

少々長くなってしまいましたが、成家さんの新天地でのご活躍をお祈りしています。いつでもピアノクラブに遊びに来てください。ご連絡をお待ちしています。その時は是非ともお得意と伺った『鬼電』を。

続きまして、成家さんの同期の方々や関係の深かった方々から頂戴したメッセージを紹介いたします。

16代　馬場　健聡

成家は、僕の保護者のような存在です。

11月の交流コンサートでも、朝から常に狼狽するこの馬場健聡を優しくそしてクールに導いてくれました。

普段は全てが完璧すぎる彼ですが、飲み会では大好物の日本酒を大量に飲んで、お茶目ではっちゃけたキャラになります。

そんなギャップもまた魅力ですね！

色んな所でピアノクラブを引っ張ってくれた彼が卒業してしまうのは大変寂しいですが、これからもちょくちょくピアノクラブに顔を出して、見守ってくれると嬉しいです！！

26代　小川　巧真

ナリヤ君卒業おめでとう。

入学した時から凄い人がいるなと思ったらもう卒業なんて。時が経つのは早いですね。

あの小柄な体型ながらピアノの腕はかなりのもので、毎回難曲をチョイスします。

たまに薬学部の闇の力で完成度が撃沈してしまう事もありますが、上手くいった時の彼の演奏はブラボーと言いたくなるほど鮮やかです。

今回はナリヤ君が卒業する立場で気合い入っているはずなので、私は彼の演奏を非常に楽しみにしています。

29代　木村　真緒
ピアノクラブ29期の部長！
ピアノは誰が見ても上手でコミュ力高くてたくさんの先輩後輩とも交流があり、成績も優秀でハイスペックキャラです。
お酒を飲んだら酔っぱらいキャラに変身してしまい後輩にダル絡みしてしまうがそれもみんなから愛されキャラだと思います。

29代　山本　彩華
ピアノの音が抜群に綺麗で、彼のことを知らない部員はいなくて、プーさんと住んでて、お酒が強く(弱く)て、シゴデキで、たまにメガネが本体で、後輩だけじゃなく同期の面倒も見てくれて(?)、圧倒的エースで…という要素を並べればすぐに誰かわかるでしょう。

彼は6年間という期間、ピアノクラブを盛り上げ続けてくれたと思います。入部当初から今日まで、ずっと素敵な演奏をしてくれました。サークル活動の中で最も関わりが深かったなりやくんもとうとう卒業というのは感慨深いですね。6年間、おつかれさまでした！以上から成家さんのお人柄はよく伝わったのではないかと思います。ちなみに私は先々月、酔った成家さんから計7発の鬼電をくらい、電話に出たら「元さんじゃなぁぁぁい❗」と謎に怒られました。反省しています(?)また、つい先日にはワインの写真と共に「虫は辛いよ」という迷言が送られて来て反応に困りました。ベロベロの成家さんをもうお家まで送り届けられないのは寂しいですね。

〜〜〜

次回の公演

スプリングコンサート
2024年04月26日
クラーク会館
開場 18:00　開演18:30

HOKUDAI PIANO CLUB